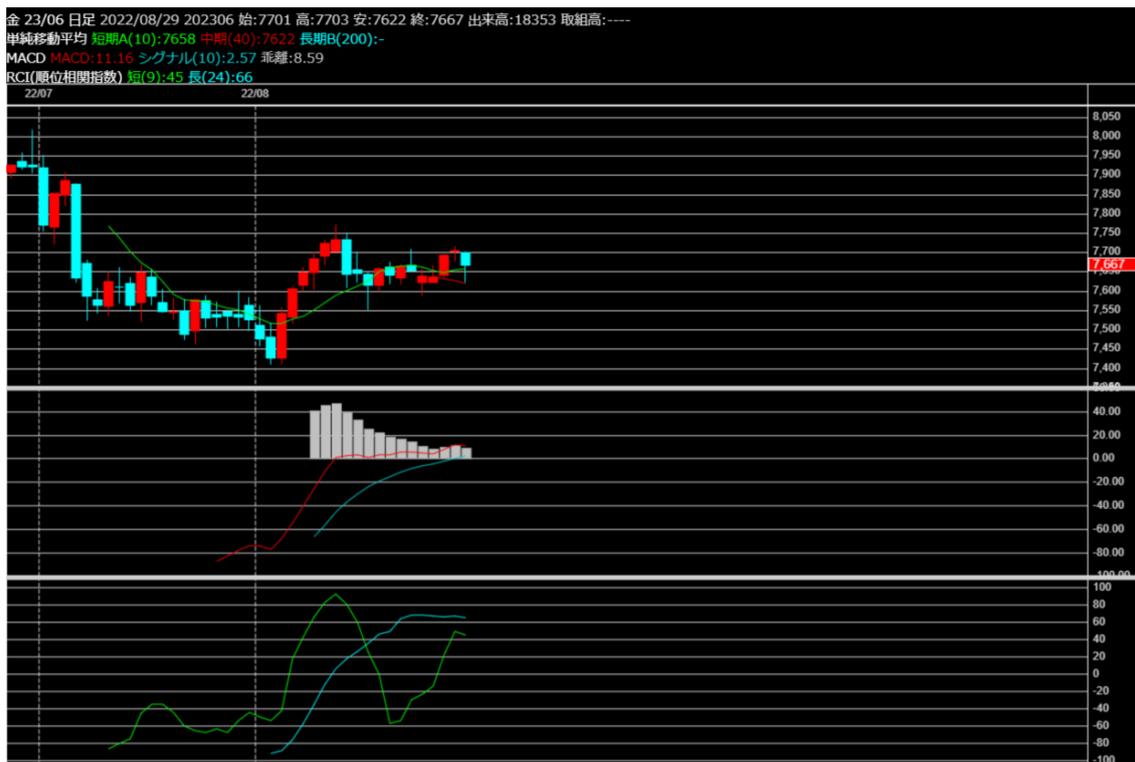


<金標準先物、日米の金融政策の違いから 7800 円へ・・・>



(出所：オアシス)

ワイオミング州ジャクソンホールでカンザスシティ連銀主催の FRB 年次総会が開催され、市場が注目していたパウエル FRB 議長の講演では「物価の安定を回復するには、景気抑制的な政策スタンスを一定期間維持することが必要となる可能性が高い」とし「過去の記録は早急過ぎる政策緩和を強く戒めている」と発言している。また黒田日銀総裁もパネル討論会後の質疑応答で「賃金と物価が安定的かつ持続可能な形で上昇するまで、持続的な金融緩和を行う以外に選択肢はない」と述べており、日米の金融政策の違いが浮き彫りとなるなど、為替市場ではドル高：円安が進む可能性が強まっている。

特にパウエル FRB 議長の講演が始まると NY 金は 10 ドル近く反落したが、金標準先物は 55 円の下落を行いながら円安で巻き戻しを見せ 13 円安程度まで戻している。また黒田日銀総裁の発言は取引終了後であり、市場には反映していない事を考慮すると、円安効果を受けて下げ渋る展開が予想される。また来週はノルドストリーム1が31日から2日までメンテナンスの稼働停止状態となるため、エネルギー価格が上昇する事も金価格を押し上げる値動きに繋がると思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では **MACD** は維持しながら、**シグナル**は切り上げており、乖離縮小から戻り高値が抑えられる可能性は高まると思える。また RCI では**短期**と**長期**が維持するなど短期の上昇が止まった事から、目先の調整安には注意が必要である。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,128,000 円(2022 年 8 月 29 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 8 月 29 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>